

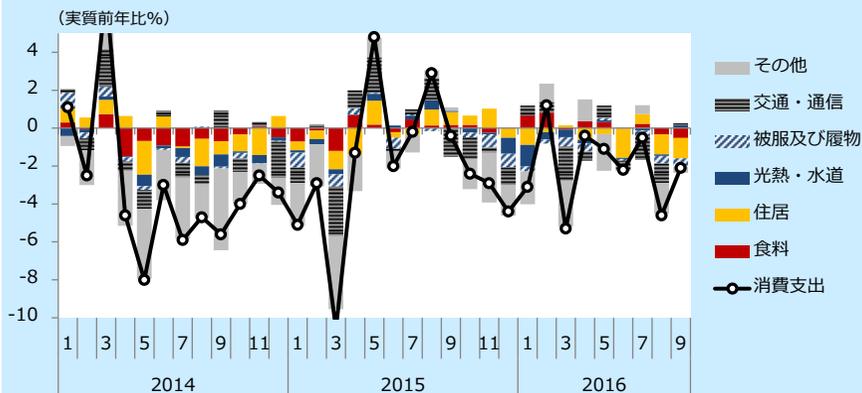
日本：家計調査報告（2016年9月）

— 天候不順が下押しも、均せば持ち直し継続 —

MRI Daily Economic Points

October 28, 2016

図表 実質消費支出



評価ポイント

2016年9月の結果

- 2016年9月の消費支出(二人以上の世帯)は、実質前年比で▲2.1%と7ヶ月連続の減少となり、前月(同▲4.6%)からマイナス幅が縮小。季節調整値では、実質前月比+2.8%と、2ヶ月ぶりに増加に転じた。
- 季調済前月比でプラスに寄与したのは、交通・通信、住居、その他の消費支出である。交通・通信は、自動車購入や自動車等維持(ガソリン等)の持ち直しから実質前月比+12.0%(寄与度+1.8%p)となった。住居は、8月の相次ぐ台風上陸に続く9月の長雨により、住宅設備関連の修繕サービスは低調に推移したが、家賃地代の持ち直しにより同+10.4%(同+0.7%p)となった。ただし、その他の消費支出も含め、これらは単月の振れが大きい品目であり、均してみる必要がある。
- 一方、マイナスに寄与したのは、食料と保健医療である。保健医療は単月の振れの範囲内であるが、食料は、年明け以降に下落傾向が続いている。夏場以降の不漁による値上がりから魚介類(実質前年比▲8.1%)が不振なほか、天候不順などから外食(同▲4.7%)も低調に推移している。
- 勤労者世帯の実収入は、実質前年比+2.7%と2ヶ月連続でプラスとなった。世帯主収入が持ち直している。

図表 消費水準指数



図表 実収入



基調判断と今後の流れ

- 消費は、天候不順の影響などから足元は横ばい圏内で推移しているが、15年末以降を均せば緩やかな持ち直しの動きが続いている。
- 消費の先行きは、雇用・所得環境の改善が消費の下支え要因となるほか、天候不順による下押し圧力の緩和も予想されることから、16年度末にかけて緩やかながらも持ち直しの動きが続くと予想する。
- 先行きのリスク要因としては、一段の円高・株安進行が消費マインドを悪化させる可能性が挙げられる。足元の金融市場は落ち着いているものの、①英国のEU離脱交渉の行方、②米国大統領選、③欧州銀行の経営不安、④中国経済の下振れなど、投資家のリスク回避姿勢が再び強まりかねないリスクはくすぶっている。